

学童期の腹部湿疹と成人後の全身症状を経て IgE が低下傾向となった成人アトピーの経過 (37 歳 女性)

症例 ID：001-30-TM5 | 記録日：2016 年 11 月 19 日

1. 診断・治療前経過

小学 5 年頃の 3 月、腹部を中心にかゆみと浸出液が出て、近医の皮膚科で外用薬を使用しました。症状は数か月以内に軽減し、中学期は薬をほとんど必要としませんでした。

20 歳頃、下腿と上肢の皮膚症状が短期間で全身へ広がり、手指にも出ました。複数の医療機関と市販薬で対応した後、松本医院を受診されました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	学童期および成人後の皮膚症状に、皮膚科処方薬と市販薬を使用しました。製品名とステロイド含有の詳細は不明です。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	小学 5 年頃に数か月、20 歳頃以降に断続的に使用しました。
中止時期	松本医院での治療開始時期です。
来院前／後	来院前に外用薬使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
小学 5 年頃	初発	腹部を中心にかゆみと浸出液が出ました。
中学期	安定期	薬をほとんど必要とせず、時折症状が出る程度でした。
20 歳頃	全身悪化	下腿・上肢から短期間で全身と手指へ症状が広がりました。
松本医院受診	治療開始	煎じ薬、漢方入浴、外用処置を開始しました。
治療初期	ピーク	皮膚が赤く、落屑と浸出液が強い時期がありました。
その後	反復経過	症状が強い時期と軽い時期を繰り返しながら治療を続けました。
2016 年 5 月	検査値変化	総 IgE は 2011～2012 年のピークから低下し、19050 となりました。

4. ピーク時期

ピークは成人後、下腿と上肢から全身・手指へ症状が急速に広がり、治療初期に赤み、落屑、浸出液が強かった時期です。

5. 困りごと

- ・複数の医療機関を受診しても症状を繰り返しました。
- ・治療初期は入浴と複数の外用処置を毎日行う必要がありました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。

時期	総 IgE
2010 年 2 月 24 日	1563
2010 年 6 月 9 日	2309
2011 年 6 月 21 日	8790
2011 年 12 月 27 日	39160
2012 年 6 月 29 日	31200
2012 年 11 月 9 日	30625
2013 年 3 月 12 日	24900
2013 年 8 月 29 日	26725

時期	総 IgE
2013 年 12 月 20 日	22025
2015 年 7 月 15 日	23000
2016 年 5 月 13 日	19050

7. 経過のまとめ

皮膚症状には波が続きましたが、総 IgE は 2011～2012 年の高値から 2016 年にかけて低下傾向を示しました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。